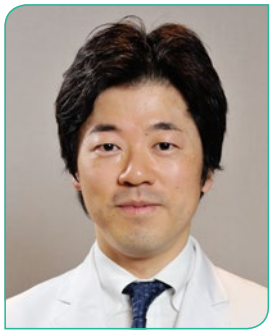
施設訪問

医療法人社団　菅沼会

腎内科クリニック世田谷

院長	菅沼 信也
透析ベッド数	51床(個室2床)
所在地	〒157-0062 東京都世田谷区南烏山4-21-14
TEL	03-5969-4976
HP	http://www.jinnaika.com/

最新知見による患者さんのQOLを第一とした透析医療



院長　菅沼 信也 先生

医療法人社団菅沼会腎内科クリニック世田谷は、人口10万人超の世田谷区烏山地域初の透析施設として2008年京王線千歳烏山駅近くに開院した腎臓病・人工透析・糖尿病専門医療施設です。地域の腎臓病の医療レベル向上を目指した診療が奏功し、透析ベッド数は開院以来6年で7床から51床に増加(2015年1月)、通院患者さんも年々増加しています。

そこで今回は、間歇補充型血液透析濾過(I-HDF)やオンラインHDFなどを中心に、患者さんのQOLを第一に考えた透析医療を実践する院長の菅沼信也先生、事務長の小原弘さん、看護師長・透析療法指導看護師の小山千代美さん、技士長の正木一郎さんに、患者満足度を重視した透析医療についてお話を伺いました。

患者さんの特性に合わせた高効率透析導入

「当院が透析医療施設として通院患者さんに選んでいただけているのは、当院の治療方針も関係していると思います」

そう話すのは、腎内科クリニック世田谷を開業された院長、菅沼信也先生。

「当院の透析医療のモットーは、食べて、動いて、しっかり透析することです」

菅沼先生は、患者さんのQOLの向上と生命予後改善を第一に考え、透析医療における数々の臨床試験の結果を検討した結果、この治療方針に辿り着きました。

「食事制限は最低限としてしっかり栄養を摂ることを勧めています。その代わり、高効率透析を実践し、透析開始1時間後から30分間の運動療法を推奨しているのです」

透析効率を上げるための三大条件は、透析時間の延長、血流量の増加、膜面積の拡大。このいずれの値も、透析歴40年以上の2名の方を含め、腎内科クリニック世田谷の平均値は全国平均を上回っています。

透析時間の延長などは、患者さんによっては難色を示すことのある条件ですが、4時間を超える長時間透析を実施することで、食事制限が緩和される点や薬剤を減らせる可能性がある点などを説明すると、多くの患者さんの同意を得ることができると言います。加えて、6時間以上の長時間透析では、透析中に食事を出すなどの工夫もしているとのこと。

しかし、生活環境によっては、どうしても高効率透析の三大条件をクリアできない患者さんもいらっしゃいます。

「そのような場合、当院では、透析回数の追加を提案しています。保険診療内で認められる最大の1ヵ月14回、透析を行えるよう、患者さんと透析スケジュールを組むのです」

曜日を固定した週3回透析では、多くの月で1ヵ月の透析回数は13回となります。月1回だけ2日連続透析を行う機会を設け、透析回数を月14回とすることで、患者さんにとってはメリットがあると菅沼先生は言います。

「月14回透析を行うと、魔の2日空きを1回減らすことができます。当院では、2日連続透析を行う日は、食事制限をまったく考えなくてよい、家族と同じ食事を摂ってよいと話しています。栄養をしっかり摂れる上、食事制限に対する患者さんのストレスを軽減できるので、患者さんからの評判も上々です。当院では、体調が安定すると言って、毎月14回透析を受けている患者さんも少なくありません」

高効率透析がもたらす患者さんに優しい食事制限

事務長　小原 弘 さん

腎内科クリニック世田谷で高効率の透析を継続した患者さんは、菅沼先生の食事指導に驚くと言います。

「効率の良い透析を継続することで、カリウムとリンの血中濃度は十分に下がります。いわゆる透析患者さん向けの食事制限を遵守している患者さんの場合、低カリウム血症を呈してしまうこともありますので、当院では、カリウムをもっと摂ってくださいと指導することが少なくありません」

透析(PD or/and HD)を開始後、タンパク質制限も通常解除されるため、腎内科クリニック世田谷で高効率透析を受ける患者さん

の食事制限は、実質塩分制限のみです。

「ドライウエイトに対する体重増加率の目安を1日空きで4%以下、2日空きで6%以下とすると、患者さんのストレスになりにくく、生命予後も担保できると考えています。体重増加率に最も関与するのは塩分摂取です。管理栄養士と協力して、塩分制限に対する食事指導は丁寧に行っています」

高効率透析によって実現した優しい食事制限は、患者さんの良好な生命予後およびQOL向上を担保するとともに、患者満足度向上にも一役かっています。

円滑なコミュニケーションが快適な環境をつくる

看護師長・透析療法指導看護師
小山 千代美 さん

近年では、食事療法や運動療法が守られず、適切な透析医療実施に難渋する場面も増えていると言われています。治療方針に同意していただけない場合の患者指導のポイントとして、菅沼先生は、ご家族に説明、納得していただいた上で、医療スタッフとご家族の双方で患者さんに説明すると、患者さんの理解が得やすいと話します。

また、このときに、医師だけでなく看護師や技士ら医療スタッフ全員が、情報や知識、治療方針を共有していることも重要です。腎内科クリニック世田谷の雰囲気は、情報共有に適していると看護師長・透析療法指導看護師の小山千代美さんは話します。

「菅沼先生の親しみやすい雰囲気のおかげで、当院では、物怖じせず意見を言い合える土壌を作ることができています。職種や年齢、経験の垣根なく議論ができるので、情報共有も適切に行えています」

小山さんは、ヒヤリハット事例の収集もうまくいっていると言います。

「事例を簡潔に報告するための報告用紙を作成し、目にしやすい位置に提出箱とともに設置しています。無記名でもよいことにしており、月1回報告事例を全職員で共有しています。言いにくい事例であっても率直に報告できる環境は、日ごろのコミュニケーションの賜物であると、誇りに思っています」

待合　お食事可能なスペースも設けられたゆったりとした空間

透析室　透析室は輻射式冷暖房システムを採用

個室透析室　完全個室透析室を2部屋完備

医療スタッフ間の円滑な関係は、患者さんにも伝わっており、患者さんも遠慮なく意見を言える環境を作ることができていると事務長の小原弘さんは言います。

「患者さんの滞在時間が長い透析施設として重要なことは、環境整備です。何でも話せる雰囲気のおかげで患者さんも希望や不安な点などを気軽に相談してくれます。非常用自家発電装置、輻射式冷暖房システムや加湿器を設置し、患者さんが不安なく過ごすための環境作りをしています」

小原さんの「意見をもらったら放置せず、次回受診日には何らかの回答を行う」という意識は、患者さんの信頼の源になっているようです。

「菅沼先生の治療方針同様、厳しいというより、優しい透析施設という印象を持っていただいていると感じています。医療スタッフと患者さんというよりも、互いに家族のような意識でコミュニケーションをとっていることも患者さんに選んでいただいている秘訣ではないでしょうか」

技士長　正木 一郎 さん

小原さん同様、技士長の正木一郎さんも患者さんと医療スタッフの密なコミュニケーションを誇りに思っているとのこと。

「患者さんとの信頼関係が構築できているのも、医療スタッフの意識が高いためだと思います。送迎ひとつとっても、患者さんの自宅から透

析ベッドまで、様々な職種の医療スタッフが、途切れなくサポートしています。学会参加の推奨といった教育体制が整っている点や、最新の透析機器を使用した最先端の透析が行えるといった点が医療スタッフのモチベーションアップに繋がっているのでしょう」

「元気で」「長生き」をサポートしたい

透析医療の進歩により、透析患者さんと透析施設との関わりは10年以上に及ぶことも少なくありません。小原さんは今後も全医療スタッフで協力し合いながら、患者さんが快適に過ごすことができる環境を整えていきたいと話します。

正木さんも、医療スタッフの業務に対する意欲を保ち、全職種が円滑に働ける環境作りを続けていきたいと考えているとのこと。これは、小山さんも同じ。

「やる気のある医療スタッフほど伸びることができる環境だと感じています。この環境を各スタッフがうまく活用して、専門的な資格の取得などを推奨しつつ、最適な透析医療を患者さんに提供していきたいと思います」

菅沼先生の今後の目標のひとつは、現在2例で行っている在宅血液透析（HHD）を増やして行くこと。

「患者さん向け勉強会がきっかけで、2名の患者さんがHHDを開始しました。HHDは2日空きを完全になくした高効率透析が可能です。患者さんに適切な情報を提供しつつ、引き続き、快適な透析の提供による『元気で』『長生き』できる透析生活のサポートを行って行きたいと考えます」

腎内科クリニック世田谷では、全医療スタッフが一丸となって、在宅透析（PD/HHD）を含む人工透析医療に取り組みます。

腎内科クリニック世田谷の
スタッフのみなさん

院長プロフィール
院長　菅沼 信也 先生

1997年　国立旭川医科大学医学部医学科卒業
東京女子医科大学腎臓内科（第四内科）入局
東京女子医科大学病院腎臓病総合医療センター
新宿石川病院
東日本循環器病院（現海老名総合病院）
2008年　腎内科クリニック世田谷開院
所属学会:　日本腎臓医学会 腎臓専門医
日本透析医学会 専門医
社会活動:　世田谷区医師会内科医会 常任幹事
第11回長時間透析研究会 大会長

FOCUS
高齢化の進む“透析治療”に役立つ映像コンテンツ
高齢透析看護シリーズ

1 高齢透析患者さんの看護ケア
監修：社会福祉法人 聖隷福祉事業団 聖隷佐倉市民病院 看護部次長　内田 明子 先生

Chapter 1 高齢者の特徴
Chapter 2 透析室での看護ケア
Chapter 3 こんなときどうする!?

2 誤嚥性肺炎と口腔ケア
監修：社会医療法人川島会 川島病院 歯科部長　板東 高志 先生

Chapter 1 誤嚥性肺炎の発症メカニズムと予防
Chapter 2 口腔ケアの実際
Chapter 3 状態別の口腔ケア

中外製薬では高齢化をテーマとした映像を作成し、弊社MRおよび会員制Webサイトから情報提供させていただいております。